令和２年度　文部科学省　女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業

「AI/RPA に特化した働く女性のための学び直しプログラム」報告書

京都女子大学

Ⅰ．概要

2020 年度文部科学省委託事業として、リカレント教育課程に「Saturday 通学コース」を開設した。本事業は、短期大学・大学を卒業しながらも不本意ながら非正規雇用についている女性を対象に、キャリアアップ・キャリアチェンジの選択肢として AI/RPA の基礎的スキルの修得に特化した履修証明プログラム（60 時間以上）を構築することにある。

また、本プログラムでは、京都府商工労働観光部（京都ジョブパーク）および、地元産業界や連携企業、京都市中小企業家同友会、地元金融機関と連携して企業へのリカレント教育の広報から交流会や受講生の就業支援までを実施した。

１．事業目的

(1) 本事業は、働く女性を対象に、以下を目的とした。

①最新の ICT（特に AI/RPA）の基礎運用能力を効率的・実践的に修得できるプログラムの構築

②労働意識の確立など受講生の意識変革

③受講生個人に寄り添った相談体制を行政と連携して確立

④行政・経済団体・企業・地元金融機関と連携した就業支援体制の構築

⑤地元中小企業への人材供給（令和 2 年度「京都府就業支援・人材確保計画」）

(2) 家計補助を目的に働く女性に対し、自らの能力を活かして市民として社会に貢献する労働観を身につけるため、京都市男女共同参画センターと協働して市民としての意識の醸成を図る。また連携企業や京都中小企業家同友会と連携してインターンシップや交流会を実施する。

(3) 本事業では、京都府商工労働観光部（京都ジョブパーク）及び地元産業界や地元金融機関と連携して企業へのリカレント教育の広報から受講生の就業支援までを実施する。

２．募集期間と志願状況

＜募集要項（実施要領）＞

(1) 応募資格

大学または短期大学卒業者、及びこれと同等以上の学力があると認められる者で、就業経験のある女性（学校教育法に定める学校に在学する者は履修不可）かつ基本的なパソコン運用能力を有する者。

(2) 募集定員

15 名

(3) 出願期間

2020 年 7 月 27 日（月）～8 月 21 日（金）必着

(4) 選考方法

書類審査（履修申込書の内容）と面接およびパソコンスキルテスト

(5) 面接日

2020 年 8 月 29 日（土）、31 日（月）、9 月 1 日（火）の本学が指定した日時

(6) 合格発表日

2020 年 9 月 4 日（金）

(7) 入学手続期間

2020 年 9 月 7 日（月）～9 月 11 日（金）必着

＜志願状況＞

出願件数	定員（合格者）	倍率
26	15	1.73

３．カリキュラム

区分	科　目　名	時間/回数	開講日	講時	履修時間（時間）
必須	ITリテラシー	90分/8回（2回×4日）	11/7 ・ 11/14 ・ 11/21・11/28	各日3・4講時	12
		90分/4回（1日）	10/31	1～4講時	6
	AI リテラシー	90分/12回	11/7 ・ 11/14 ・ 11/21・11/28 12/5 ・ 12/12 ・ 12/19・ 1/16・1/23・2/6・ 2/13・2/27	1講時	18
	RPA講座	90分/12回（4回×3日）	11/3・12/26・1/9	1～4講時	18
	ライフキャリアデザイン	90分/12回	10/3 ・ 10/10 ・ 10/17 ・ 10/24 ・ 11/7・11/14・11/21 11/28 ・ 12/12 ・ 12/19・1/16・1/23	各日2講時	18
選択（うち1科目必須）	ロジカルライティング	90分/3回	1/16・1/23・2/6	3講時	4.5
	ビジネスライティング	90分/1回	1/16	4講時	1.5
	プレゼンテーション	90分/3回	1/23・2/6・2/13	4講時	4.5
必須	インターンシップ	90分/4回（1日）	2/20	終日（1講時～4講時相当）	6
				計	88.5

４．教育目標

(1) 必修科目（ IT リテラシー、AI リテラシー、RPA 講座、ライフキャリアデザイン）

・実務に役立つ AI/IT の基礎知識やスキルを身につける。

・自身のキャリアプランを多面的な視点から分析し、成長への意欲を醸成する。

(2) 選択科目（ロジカルライティング、ビジネスライティング、プレゼンテーション）

・ビジネスの実践力を身につける（選択科目だが、殆どの受講生が履修登録）

(3) 必修インターンシップ

・RPA のシナリオ作成から運用までケーススタディに基づき実践する。

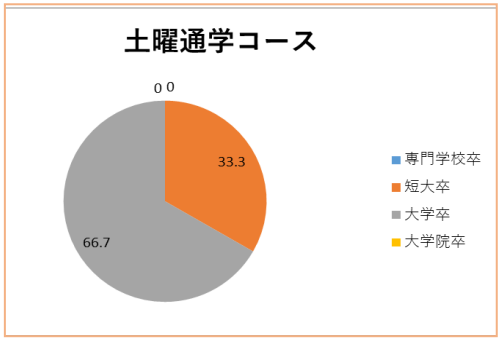
Ⅱ．受講生の属性

Saturday 通学コースは平均年齢が 36.9 歳と若く、ワーキングマザーも 60%を占めた。平均履修科目数も全開講科目 8 科目中、7.6 科目であり、働きながら学ぶことに意欲的な姿勢がみられる（図 1）。なお、最終学歴は半数以上が大学卒業である（図 2）。居住地は京都府内が約 7 割以上を占め、残り約 3 割を大阪、滋賀、兵庫で占めていた（図 3）。これは、受講形態が e ラーニングベースではなく、通学ベースであることが起因していると考えられる。

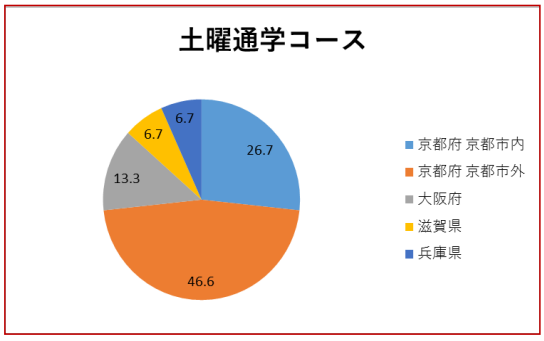
（図 1：土曜通学コース受講生属性）

項目	内容
定員	15人
志願者数	26人
合格者数	15人
倍率	1.73倍
合格者平均年齢	36.9歳
平均履修科目数	7.6
WM（ワーキングマザー）率	60%

（図 2：最終学歴）（%）

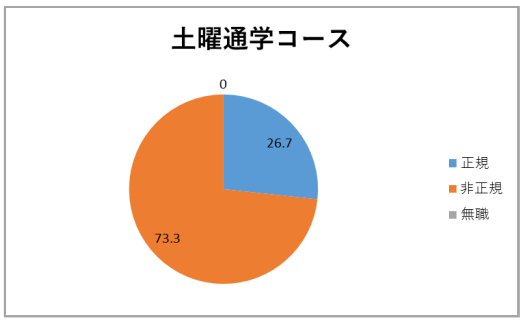


（図 3：居住地）（%）



雇用形態については、契約社員や派遣などの非正規雇用者が約 7 割以上を占め（図４）、受講生 15 名中、13 名が転職を希望していた。契約満了までに、「IT リテラシーや RPA のスキルを身につけて転職したい」という声も聞かれ、キャリア開発に本プログラムを利用していることがわかった。

（図 4：雇用形態）（%）



Ⅲ．就業指導・就業支援

１．特徴

(1) リカレントプログラムコーディネーター兼キャリアカウンセラーが開講日に常駐し、受講生からの相談、キャリアカウンセリング、履歴書等の執筆指導、面接指導など行う。
⇒キャリアカウンセラーによる就業に向けての one to one のサポート

(2) チャットシステム（ELGANA）やメーリングリストで情報共有を行う。
⇒受講生同士の親密性を高め、キャリアへの意識を相互刺激

２．イベント

(1) リカレント座談会（Zoom）

①日　　程：11 月 14 日（土）18：30～19：20

②目的と内容：リカレント生同士の親密性を高め、学習とキャリアアップのモチベーション向上を目的として実施。

③結　　果：受講生３人のみの参加＋事務局。参加者には好評だったが、帰宅後は、家事育児に追われるため参加が難しいとの声があった。
（子どもの寝かしつけが終る 21 時半ごろが都合がよいとの声も。）
＜見えてきたこと＞
・40%が結婚
・子ども有り→全体の 60%（内未就学児・小学生 56%）
・全体の 20%がシングルマザー
・帰宅後は自分のために時間が使いにくいという現実

(2) 京都市わかもの就職支援センター（対面）

①日　　程：11 月 21 日（土）16：30～17：10

②目的と内容：「今、求められる女性人材について」の講演と就職氷河期の女性も支援

対象としている当該センターの活用についても説明。

③結　　果：土曜コース受講生７人の参加。
情報収集手段の一つとして活用していきたいとの声。

(3) リカレントカフェ（Zoom）：京都市中小企業家同友会協力

①日　　程：11 月 28 日（土）18：30～19：30

②目的と内容：「今、必要とされるビジネススキル」「中途採用者に期待すること」をテーマに京都市中小企業家同友会所属の女性経営者 4 名の講演と意見交換を行った。

③結　　果：土曜コース受講生６人の参加。女性経営者のこれまでのキャリアや考え方等、大変勉強になったとの意見が多かった。
「起業家」としてのロールモデルを提示できた。

(4) 企業との交流会（Zoom）：京都市わかもの就職支援センター協力

①日　　程：2 月 9 日（火）13：00～15：00

②目的と内容：就職氷河期の女性を求人対象としている京都市の企業 5 社による企業説明会

③結　　果：リアルタイムでの土曜コース受講生の参加はなし。後日、画像を視聴。
企業にリカレント生を知っていただく良い機会になった。

Ⅳ．男女共同参画社会へのマインドアップ方策

男女共同参画社会へのマインドアップ方策として、関連企業・機関へ向けた①「成果報告」（リカレント受講生の決意表明※Ⅴを参照）、②京都府男女共同参画課との連携（セミナー提供）、③ＮＴＴ西日本からのセミナー提供、④文部科学省事業「女性の学びサポートフォーラムによる普及啓発事業」への参加、⑤全日本大学開放推進機構での講演を行った。

１．京都府男女共同参課との連携

京都府男女共同参画課と連携し、就業や社会参画への意識を醸成するため就労前セミナーを提供いただいたが、開講日が平日であり、受講者はゼロであった。ワーキングマザーでも参加しやすい日時設定や実施についての工夫が課題となった。

＜リカレントプログラム就労前セミナー（京都府提供）＞

・12 月 11 日（金）16：30～18：00　現在の業界・業務の変化～関連職種と必要スキル
・1 月 13 日（水）16：30～18：00　インスタグラム（SNS）を活用した広報と集客
・1 月 26 日（火）16：30～18：00　起業セミナー：資金調達や手続きから集客・商品づくりまで
・2 月 5 日（金）16：30～18：00　しあわせ感を高めるポジティブ心理学
・2 月 26 日（金）16：30～17：15　人事担当者による企業が求めるスキルと人物像

２．その他

(1) NTT 西日本からのセミナー情報提供

本学と連携協定関係にある NTT 西日本より、本プログラム修了後の学びの機会のひとつとして「つなぐ×かえるプロジェクト　就労支援事業」(https://tsunagu-kaeru2.jp/)の情報の提供があった。(NTT と KDDI の共同事業であり、ICT に関するセミナーを無料で提供するものである。) 本リカレント教育課程を修了後、ICT に関する学びをより発展させたい受講生に対応した。

(2)「女性の学びサポートフォーラムによる普及啓発事業」への参加

女性のためのリカレント教育推進協議会の当該事業イベントへのリカレント相談会参加等を通して、女性のためのリカレント教育普及に携わった。7 月 23 日（木・祝）開催のイベント後の個別相談会参加者が実際に本プログラムへの申込につながったため、一定の成果が見られた。また、令和 3 年 2 月 19 日開催のイベント「コロナ時代のリカレント教育」においては、本学地域連携研究センター長が演者として参加し、男女共同参画社会のマインドアップに寄与した。

(3) 全日本大学開放推進機構での講演

全日本大学開放推進機構より本学のリカレントについての講演の依頼があり、地域連携研究センター主任が演者として参加した（令和 3 年 2 月 20 日)。

Ⅴ．成果報告会

本プログラムで学び、再構築したキャリアに関する決意を受講生が発表する機会として、成果報告会を対面で開催する予定であったが、コロナ感染拡大防止のため、受講生の発表動画（音声付きパワーポイント）を web(パスワード付き)でアップし、関連企業・機関・講師に案内した。

成果報告会動画（公開期間：3 月 6 日～3 月 31 日）

http://rccp.kyoto-wu.ac.jp/rccp/recurrent/secret2/seikahoukoku2020.html

なお、視聴された関連企業・機関からは、「受講生がリカレントで学び、意識を変革された様子がしっかり伝わった。」「受講生の学びの成果がわかる発表だった。」「リカレントが有益であることがよくわかった。」等の声が聞かれた。

Ⅵ．これまでのリカレント教育課程の課題と本事業によるソリューション

これまでの本学のリカレント教育課程は、ライフイベント等でキャリアを中断した女性を主な対象としていたため、基礎的なビジネススキルを身につけるため、平日昼間の開講科目を中心とした通学のみのカリキュラム編成であった。そのため、①就業している女性の通学が困難、②履修時間が多く、遠隔地に居住する女性の通学が困難などの課題があった。本事業はこの課題を解決し、さらに、企業で求められる AI/RPA スキルが身につくカリキュラムとし、就業中の女性のニーズにこたえるものとした。後述の評価の結果として、本プログラムの目的である「働く女性の AI/RPA スキルを身につけること」は達成できたと考え、一

定のソリューションが提供できたと判断する。

Ⅶ. e ラーニングコースとの関連性・相乗効果

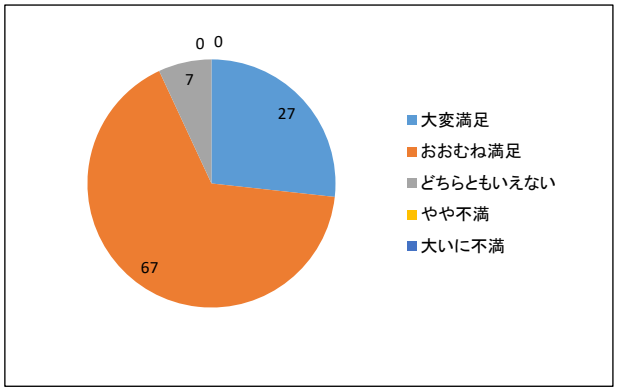
本学において、e ラーニングコース（120 時間履修証明プログラム）と本コース（60 時間履修証明プログラム）を設置することにより、きめ細かな女性のニーズに応えることが可能となると考えていた。相乗効果として、①各コースでの受講生からの質疑や反応を双方の授業の運営に反映することができたこと、②ELGANA(NTT 西日本提供のチャットシステム)を両コースの受講生の利用に供したため、親密性が高まり、学びやキャリアアップに対するモチベーション向上に寄与できたことが挙げられる。なお、修了式（3 月 6 日）後、両コース受講生及び講師の交流会をコロナ感染拡大防止策を講じながら開催した。

Ⅷ. 調査結果

１．受講生の満足度と本プログラムへの評価

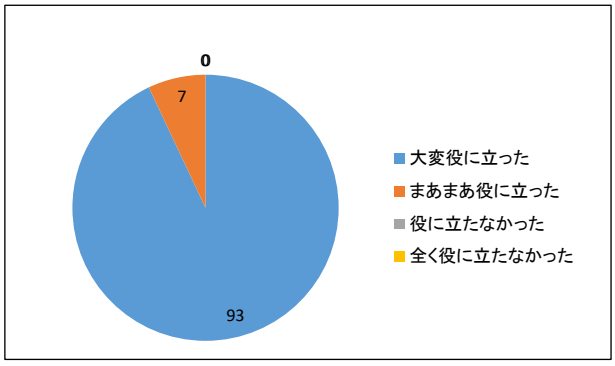
本プログラムに対する受講生の満足度は 93%（大変満足・おおむね満足）であり、高い評価を得ることができた（図 5)。

（図 5：教材、カリキュラム、内容は自身の期待した能力の習得に役立つものとして満足できたか）（%）



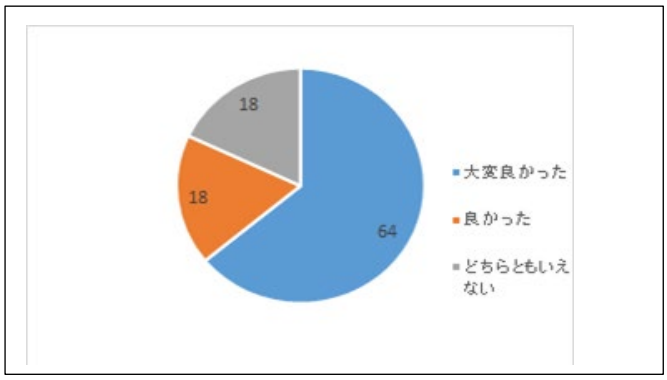
本プログラムの有用性（大変役に立った・まあまあ役に立った）は 100%の評価であり、全員が本プログラムについて自身のキャリアを考えるのに役立ったと回答した（図 6)。

（図 6：本プログラムは自身のキャリアを考えるのに役に立ったか）（%）



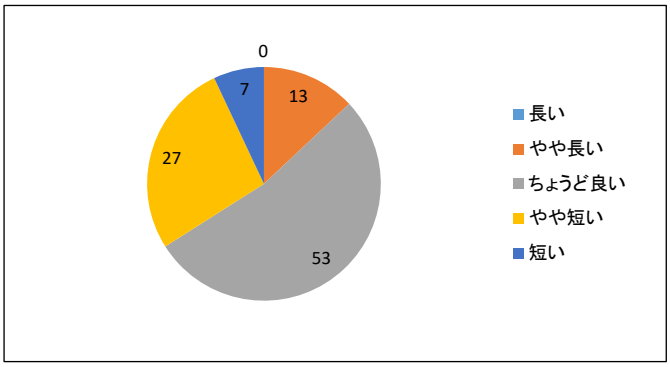
また、本プログラムには、就業支援に関するセミナーや、キャリアコンサルタントによるキャリアカウンセリングを希望者のみ実施した。これらを利用した受講生からも高い評価を得ることができた（図 7）。

（図 7：就業セミナー、キャリアカウンセリングについて）（%）



本プログラムの受講期間については、ちょうどよい（53%）、短い・やや短い（合わせて40%）であり、意見の分かれるところとなった（図 8）。その理由として、当該プログラムは他のコースと比較するとカリキュラムがコンパクトであり、開講科目数や選択の幅が少ないことが挙げられる。実際に受講生から「選択科目がもっとほしかった」「AI に関することを学び、もっと深めたいと思った。」等の声が聞かれ、学び直しの意欲が高まったと思われる。

（図 8：受講期間について）（%）



各講義科目の有用性（役に立った）については、２で後述する通り平均 99%の大変高い有用性を示した。特に、キャリア意識を醸成するコア科目といえる「ライフキャリアデザイン」ではその有用性（役に立った）については 100%であり、「自分の人生を前向きに、楽しい未来を想像することができた。」「これまでの漠然とした不安が消えて、一歩ずつ目標に向かって頑張ろうという意欲が湧いた。」等の感想が寄せられており、授業の中で、自己のキャリアを振り返り、自己分析を重ねることで、今後のキャリアプランを考える契機となり、次の受講生の声にある通り、キャリアへの前向きな意識が醸成されている。

＜受講生の声（抜粋）＞

・自分の人生を前向きに考えることができ、今後明るい気持ちでキャリアチェンジができそうだ。

・受講生の仲間と一緒に時間をかけて内省することができ、励みになった。目標に向かって頑張りたいと思う。

・短時間だったが、大学という安心な場所で集中して受講できたことでより深い学びができた。

・これまでの漠然とした不安が消え、今後の生き方を考えるうえで、一生の財産となる講義だった。

・自分を見つめなおすことができ、この先本当に何がやりたいかを見つけることができた。

IT リテラシーについては、80%の受講生が受講前よりも自信をつけており、本プログラムの目的である「AI/RPA のスキルを身につけた人材の育成」は一定の成果をあげることができたと考える。

２．講義科目の有用性

各講義科目の有用性（役に立った）については、以下の通り、平均 98.4%の大変高い有用性を示した。

【各講義科目の有用性※】

※「大変役に立った」「まあまあ役に立った」の合計

講義科目名	有用性
「ITリテラシー」	93%
「AIリテラシー」	100%
「RPA講座」	100%
「ライフキャリアデザイン」	100%
「ロジカルライティング」	100%
「ビジネスライティング」	100%
「プレゼンテーション」	100%
「インターンシップ」	94%

また、15 名の受講生中 6 名が本プログラム受講前から就業先の変更「あり」と回答しており、内訳として「正規職員への転換」が 1 名、「正規職員面接考査中」3 名、「グループ内企業への異動」1 名、「退職して転職活動中」1 名であった。

受講生の約半数（40%）がキャリア開発への行動をとっており、この面においても一定の成果があったと考える。

なお、その後の追跡調査で、「正規職員面接考査中」の 3 名が全員合格し、非正規から正規への転換を図ることに成功している。

Ⅸ．外部機関からの評価

プログラムの期間中、地域連携研究センター長が演者として参加した女性のためのリカレント教育推進協議会主催リカレント教育啓発事業イベント「コロナ時代のリカレント教育」（令和 3 年 2 月 19 日）において、他大学より「他大学ではできないきめ細かいプログラムである」「就業支援が手厚い」等の評価を得た。

また、地域連携研究センター主任が演者として参加した全日本大学開放推進機構のリカレントをテーマとした講演会（令和 3 年 2 月 20 日）においても、「ここまで手厚いプログラムは他大学には真似できない」「多様なライフステージの女性をサポートしているプログラムである」との高評価を得ている。本プログラムが組織的な取り組みで進めていることと、就業支援などが one to one のきめ細かい取り組みが第三者機関からの高い評価につながったといえる。

Ⅹ．目標値とアウトプット

本プログラムについては、「定員充足率」「プログラム全体の満足度」「講義への満足度・有用性」「就業支援・相談体制」について目標値を設定していた。アウトプットは以下の通りである。

プログラム全体や講義についての満足度はいずれも目標値を達成しており、プログラムの有用性も 100%であり、受講生に高く評価されていた。

【定員充足率】

目標値	成果
60%以上	100%

【プログラム全体への満足度】

目標値	成果
「大変満足」「満足」あわせて 90%以上	「大変満足」「おおむね満足」あわせて 93.7%

【講義の満足度】

目標値	成果
「大変満足」「満足」あわせて 90%以上	「大変満足」「おおむね満足」あわせて 93.7%

【講義の有用性】

目標値	成果
「理解した」60%以上（全科目の平均）	「大変役に立った」「役に立った」あわせて 99.2%

また、講師からの成績評価として受講生の理解度（全科目の「理解した」の平均値）は92.8%であり、講義科目についても受講生が理解し、知識とスキルを着実に身につけていることが示唆された。IT スキルについても、IT リテラシー受講後に受講生の 80%が「自信がついた」と回答しており、一定の成果をあげることができたといえる。

「本プログラムのキャリアへの有用性」については、当初設定してなかった目標値であり、文科省の要請でアンケートに追加した項目であるため成果のみの記載となる。

【本プログラムのキャリアへの有用性】

成果
「大変役に立った」「まあまあ役に立った」あわせて 100%

就業支援・相談体制については目標値を越えていたが、参加した受講生からは、「時間帯が合わず、利用できなかった」という声もあり、仕事・育児・家事で可処分時間が少ないワーキングマザーが参加しやすい時間とアクセス方法について課題が残った。

【就業支援・相談体制】

目標値	成果
「役に立った」80%以上	「大変良かった」「良かった」あわせて 81.8%

Ⅺ. 評価部会からの評価（表１）

本プログラムを客観的に評価するため、過半数の外部委員と本学委員で構成される「評価部会」を編成し、3 月 5 日～9 日に書面会議（メール会議）を実施した。「カリキュラム全体の有用性（役に立つか）」「就業支援の有用性（役に立つか）」「目的達成性（本プログラムが目的を達成していないか）」についての評価と本プログラムに関する意見を徴収した。それぞれの項目の平均値は「達成できていると考える」との回答であり、外部委員からは「プログラムの内容が素晴らしく、受講生の評価も非常に高い。コロナ禍での女性の雇用維持やスキルアップが求められている中、来年度も是非このようなプログラムを実施していただきたい。」「京都府が設置する予定の〝生涯現役クリエイティブセンター〟との将来的連携も視野に入れるべきと考える。」等の大学がリカレントで果たす役割に期待する声が寄せられた。（委員メンバー：本学特命副学長、本学教務部連携推進課長、京都府商工労働観光部、京都市男女共同参画推進担当、大学コンソーシアム京都）

（表１：評価結果一覧/４尺度評価）

		カリキュラム全体の有用性	就業支援の有用性	目標達成性
1	京都市男女共同参画推進担当	4	4	4
2	京都府商工労働観光部	3	3	2
3	大学コンソーシアム京都	3	2	3
4	学内委員	3	3	3
5	学内委員	4	3	4
	平均値	3.4	3	3.2

Ⅻ．課題の抽出

１．アクセシビリティの問題

全体の受講生のうち、ワーキングマザーが 60%、シングルマザーが 20%、養育するこどもの半数は小学生以下という属性の特徴があり、可処分時間に制約があるためすべて対面を求める授業形態は厳しいものがあった。また、就業セミナーなどのイベント設定時間にも工夫が必要であり、今後は e ラーニングを取り入れるなど学びへのアクセスを担保する必要がある。

２．RPA の問題

特殊なソフトであるため、企業へ赴いての受講だった。そのため、その場限りの学びとなり、反復学習ができないため知識とスキルの定着に課題が残った。今後は、ソフトを学内のパソコンにインストールし、学内での反復学習が可能な環境を整備する予定である。

３．ビジネス科目への学びのニーズ

本プログラムに参加することにより、「組織マネジメント」や「統計」等、ビジネスに深く関連する領域の学びへの新たな意欲がみられた。（受講生へのインタビューでは、「e ラーニングコースにあるようなビジネス関する科目をもっと学びたい。」「継続して学びたいので、アドバンス的なコースがほしい。」との声があった。）

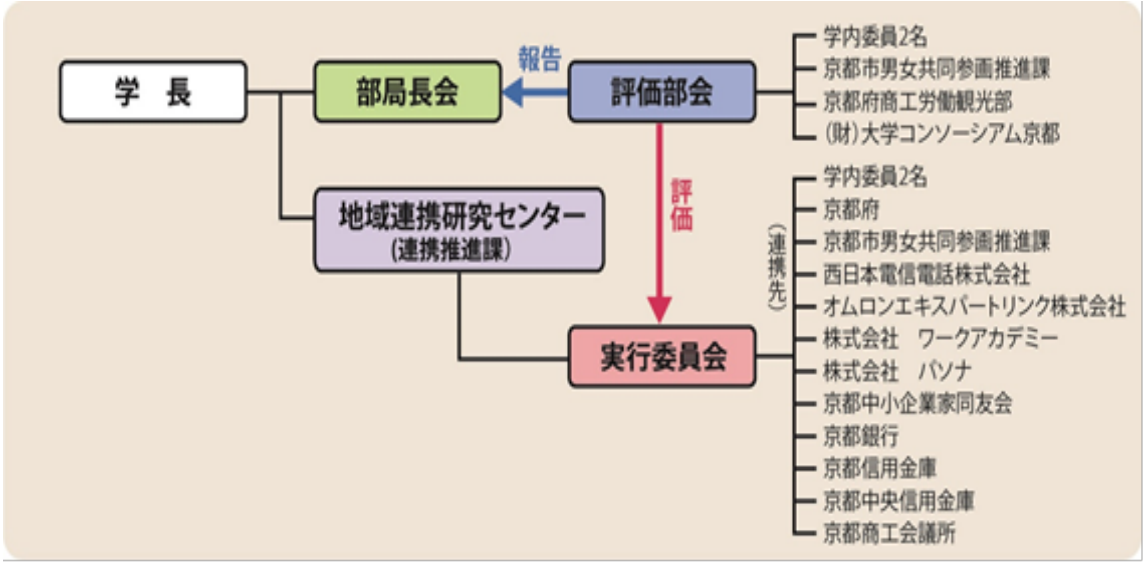
次年度については、以上の課題解決をはかり、より充実したプログラムが提供できるように構築する予定である。

また、受講後アンケートの自由回答には「大学という安心な場所で集中して受講できたことで、より深い学びができた。」との感想があり、大学がリカレントに対して担う役割の大きさと高い信用性や可能性を示唆するものである。

本事業の実施と評価を通じて、私立大学は関連法規で「公の教育を担う」と規定されているが、今後は多様なニーズに応じたリカレント教育を自主的に展開していきたい。

＜参考＞

（図 9：実施体制図）



【実施体制】（図 9 参照）

本事業は、学長の諮問機関である部局長会の下で、京都女子大学地域連携研究センターが中心となり、連携先を委員に加えた実行委員会が実施し、事務は連携推進課が支援した。評価は外部委員を過半数とする評価部会で行い（3 月 5 日～9 日）、その結果を部局長会（3 月 11 日）に報告し、学内で厳正に評価した。

地域連携研究センターは、特命副学長をセンター長としており、専任職員（係長相当）1 名、非常勤コーディネーター2 名、パートタイマー2 名で構成されている。本事業受託後は、開講期間中の土曜日に勤務する非常勤キャリアコーディネーター兼非常勤キャリアカウンセラー1 名を委託し、本事業の遂行にあたった。

【実行委員会開催】

本学特命副学長（地域連携研究センター長）を委員長として実施委員会を組織し、以下の通り開催した。開催日程と案件は以下の通りである。

■第一回　令和 2 年 7 月 30 日（木）10:00～11:00（対面）

＜報告事項＞

・文科省委託事業リカレント教育課程について

＜審議事項＞

・今後のスケジュールおよび現在の応募状況について

・インターンシップについて

・その他

■第二回　令和２年９月９日（水）11:30～12：00

＜報告事項＞

・リカレント教育課程土曜通学コース出願結果

・アンケートについて

＜審議事項＞

・リカレント生への就業支援について

・合同企業説明会および成果報告会について

■第三回　令和２年 10 月 28 日（水）15:00～15:30

＜報告事項＞

・台風休講に伴う補講について

・アンケート結果について

＜審議事項＞

・リカレント生への就業支援内容について

・合同企業説明会および成果報告会について

■第四回　令和３年２月 25 日（水）14:00～14:30

＜審議事項＞

・事業の総括～さらなる展開に向けて～

＜報告事項＞

・受講後アンケートについて

【図 10：就業支援連携機関と内容】

機関	支援内容
京都府（商工労働観光部）	ハイスペック人材（おもに観光業界で高い語学力が求められる）の就業支援（企業とのつなぎ）
京都市（男女共同参画課）	京都府就労セミナーの受講機会の提供
京都市（京都市わかもの就職支援センター）	就職氷河期世代の就業支援 （京都の中小企業求人情報提供、企業との交流会、セミナー開催）
京都市中小企業家同友会	女性起業家との交流
京都信用金庫	「人財バンク」の利用機会提供
京都銀行	「人財バンク」の利用機会提供（準備）

【実行委員メンバー】

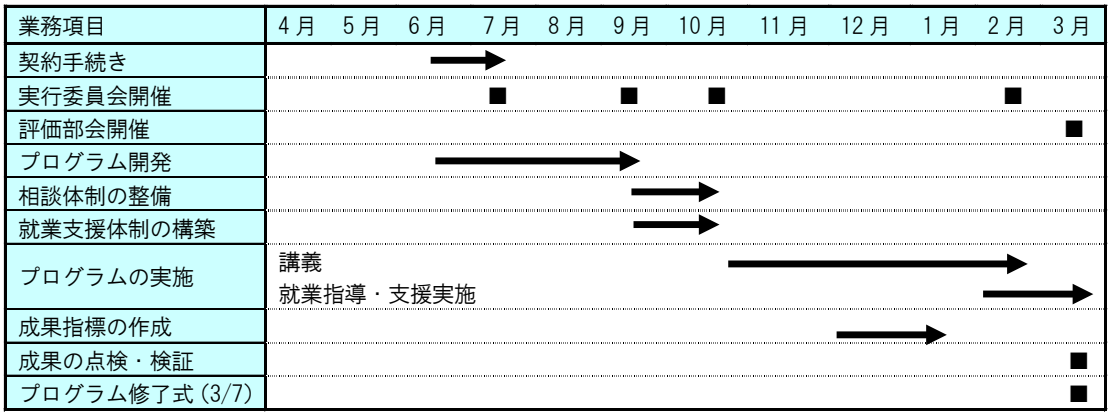
氏　　名	所　属　・　役　職　等
竹安　栄子	京都女子大学　学長
中山　玲子	京都女子大学　特命副学長・地域連携研究センター長
青木　美保子	京都女子大学　家政学部教授　地域連携研究センター副センター長
木村　真子	京都府府民環境部　副部長
河島　幸一	京都府商工労働観光部　副部長
太田　昌志	京都市文化市民局共生社会推進室　男女共同参画推進課長
今井　まゆり	公益財団法人男女共同参画推進協会　事業企画課（ウィングス京都）
吉見　弓子	京都商工会議所会員部副部長
田中　敏雄	京都中小企業家同友会　政策委員会　副委員長　教育連携担当
山下　正人	京都中央信用金庫地域創生部地域創生課　課長
竹口　尚樹	京都信用金庫　理事
中西　智明	京都銀行公務・地域連携部次長
荻野　崇	西日本電信電話株式会社　ビジネス営業本部 アドバンストソリューション営業部　文教推進担当　担当課長
川畑　由見子	元オムロンエキスパートリンク株式会社 人材ソリューションセンタ　キャリアサポート部
松田　正浩	株式会社ワークアカデミー　取締役開発本部長
工藤　龍太郎	株式会社パソナ　シニアマネージャー

【図 11　事業概念図】

【表 2　連携協定締結先一覧】

	協定締結先	協定締結日	協定書名
1	京都府	2018/7/14	京都府と京都女子大学との就職支援に関する協定書
2	西日本電信電話株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育課程に関する連携協定
3	オムロンエキスパートリンク株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育課程に関する連携協定
4	株式会社 ワークアカデミー	2019/8/1	女性のためのリカレント教育課程に関する連携協定
5	京都中小企業家同友会	2020/12/12	連携・協力に関する包括連携協定書
6	京都銀行	2016/12/8	連携・協力に関する協定書
7	京都信用金庫	2004/10/18	産学連携に関する業務連携・協力に関する覚書
8	京都中央信用金庫	2021/1/27	連携・協力に関する協定書

【表 3　事業実施スケジュール】



以　上